

中国語と日本語の動詞

～違いがわかる人になろう～

東京外国語大学 加藤晴子

はじめに

“炒”は「炒める」で“流”は「流れる」だ、楽勝。と思っている人はいませんか。同じように見えて実は違いがあります。小さな違いかもしれませんが、大きな違いにつながる可能性もあります。どんな違いがあるのか、その違いに気づくにはどうすればよいのか、見ていきます。

1. “炒”と「炒める」

1.1. 日本語の「炒める」と中国語の“炒 chǎo”をまずは辞書で調べてみる。

<p>炒 chǎo</p> <p>① 級 8</p> <p>切り炒め。</p>	<p>【動】1 <料理>炒める。いる。① → ~菜。 ① ~鸡蛋 jīdàn / いら卵。スクラン ブルエッグ。① ~肉丝 ròusī / 肉の千</p>
--	---

小学館『中日辞典』第3版 p.197 より (2以下省略)

<p>いた・める[炒める・燻める]《他下一》文いた・む (下二) 食品を少量の油を使って加熱・調理する。</p> <p>い・る[炒る・煎る・熬る]《他五》水気のなくなるまで煮つめる。また、乾いたものを、土鍋などで熱する。</p>

岩波書店『広辞苑』第六版 p.161 および p.207 より (原文は縦書き, 用例省略)

▶日本語の「炒める」と「いる」は、食材に加熱することは共通で、油ありが「炒める」、水分なしが「いる」。

<p>炒 chǎo</p> <p>【動】① 烹调方法,把食物放在锅里加热并随时翻动使熟,炒菜时要先放些油: ~辣椒 ~鸡蛋 糖~栗子 ~花生。</p>	<p>【動】① 調理方法。食品を鍋に入れ,加熱しながら絶えず動かし,火を通す。炒め物をする時は,まず少量の油を入れる:唐辛子を~ 卵を~ 栗を甘く~ 落花生を~。</p>
--	---

商务印书馆《现代汉语词典》第7版 (2以下省略, 日本語訳は加藤)

▶中国語の“炒”は、食材に加熱することを表し、油はある場合とない場合がある。→「炒める」「いる」の両方に対応する。+絶えず動かす。→日本語の「炒める」や「いる」にない要素。

□木村英樹 2017

▶中国語の「料理動詞」は基本的なものだけでもざっと十数種類にのぼることを指摘。

おなじ「焼く」でも〔中略〕細かな材料を「ひっかき回したり寄せ集めたりしながら焼く」場合は“炒chǎo”になります。

1.2. “炒酸奶・炒冰”とは何か

□多田麻美2019

「炒めヨーグルト」のような奇妙奇天烈な食べ物を売る車も、定番の羊肉などの串刺しを売る車も、～
▶直訳すれば「炒めヨーグルト」「炒め氷」だが、実は「ロールアイス」



- ▶日本語の「ロールアイス」は、筒状に巻かれた、出来上がりの形状からの名づけ。
- ▶中国語の“炒酸奶”は、へら状のもので材料をひっかき回したり寄せ集めたりしながら混ぜるという作成過程からの名づけ。形状にはこだわらないため、ロールしていないものも含まれる。



▶ただし“炒酸奶”という名前には中国語話者も意外性を感じさせ、商品名としてのインパクトがある。

2. 中国語の動詞は「動きの見た目」が重要

□相原茂 1990

中国語では、その動作が具体的にどのようなカタチを呈するのかを重視し、カタチが異なれば違った動詞を用意する傾向があります。

□木村英樹 2017（上掲の続き）

〔中略〕中国語の料理動詞はかくも細やかに使い分けられます。使い分けの要因は、〔中略〕いずれも視覚に訴えやすいものばかり〔後略〕

❖ 動詞の使い分けに際して注目点異なる

A・黒板を消す	擦cā	B・紙を切る	剪jiǎn
・ペンキを塗る	擦cā	・木を切る	砍kǎn
・窓を磨く	擦cā	・野菜を切る	切qiē
・テーブルを拭く	擦cā	・材木を切る	锯jù

Aグループは、日本語が細かく中国語が大雑把。Bグループは、日本語が大雑把で、中国語が細かい
▶一見矛盾するようだが、それぞれに共通点と相違点がある。

❖ A グループの共通点と相違点

共通点：体の前面で手を平面に沿って行き来させる動きの見た目→中国語はここに注目。

相違点：消える、色がつく、きれいになる…などの出来上がり

❖ B グループの共通点と相違点

共通点：モノが二つ以上の部分に分離されるという出来上がり→日本語はここに注目。

相違点：手先で、全身で；上下に、前後に…などの動きの見た目

▶中国語では、動き見た目が似ていれば出来上がりは気にせずにひとつ動詞でまとめる。

▶日本語では、出来上がりが似ていれば動き見た目は気にせずにひとつの動詞でまとめる。

❖ 他の動詞の例：「【日】大雑把・【中】細かい」の例

[両手ですくうように] 持つ 捧pěng [お皿を水平に] 持つ 端duān

[下から支えて] 持つ 托tuō [小学館『中日辞典』第3版p.1161参照]

❖ 他の動詞の例：「【日】細かい【中】大雑把」の例

[服を] 着る 穿chuān [ズボン、靴、靴下を] 履く 穿chuān

[針に糸を] 通す 穿chuān [穴を] 開ける 穿chuān

▶ただし、中国語も日本語も、全ての動詞が皆そうであるわけではない。例えば、中国語の“拿ná”は保持すること全般を表し、日本語の「つまむ」「かかえる」は、持ち方も表す。

3. “流”と「流れる」

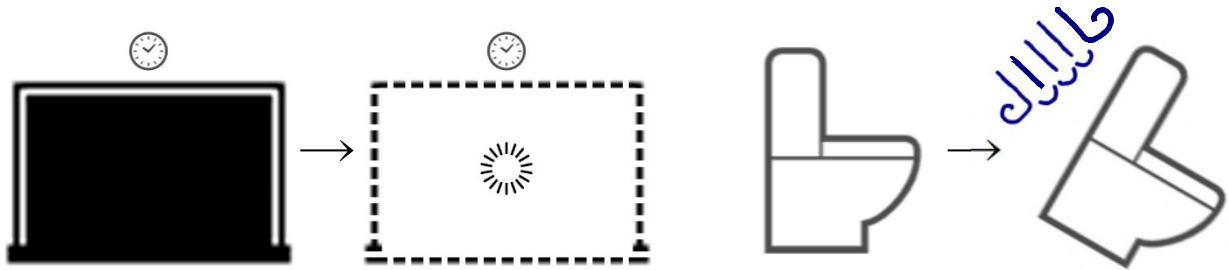
▶よく考えると、「黒板を消す」は奇妙。

□古川裕 2013

▶「トイレを流す」「川が流れる」はメトニミーによる指示物の転換の結果としている。

液体が巨大な流動力を得て、或るモノをもともと在った場所から流し去ってしまう場合、たとえば「(洪水や大雨で)家／橋が流れる」ような時には、中国語ではメトニミーは生じず、“流”を使った表現は成立しにくい。全く別の動詞“冲”(液体が大きな衝撃力を持ってぶつかる)がこの表現を完成させることになるが、中国語が注目するのは、家や橋の流失という結果状態ではなく、それを引き起こす巨大な衝撃力の方であると言えよう。〔中略〕「使用後はトイレを流してください」と伝えたい場合にも、“冲”は汚物を流し去る排水の衝撃力を描くために最適の動詞である。但し、その目的語となるモノは“厕所”(トイレ)ではなく、“水”である点に彼我の差が認められる。「トイレを流せる」日本語と違って、中国語ではメトニミーによる指示物の転換は生じず、水しか流せないのである。(古川 2013:48)

- ▶メトニミー（比喩の一種）とは，目の前にあるものから関連するものを思い浮かべること。
- ▶“擦黑板（黑板を拭く）” “冲水（水を勢いよく流す）” “流水（水を流す/水が流れる）” は目に映る事態そのものを記述している。



おわりに

- ▶日本語は「出来上がり重視」，中国語は「動きの見たい目重視」。どちらに注目するかは，世界の見方の違い。日本語だけ，中国語だけしか知らなければ，違いには気づけない。
- ▶新しい言語を学ぶことは，新しい世界の見方を知ること。AIにばかり頼っていると……
- ▶漢字が同じだからといって，安心してはいけない。

参考文献

相原茂1990『はじめての中国語』講談社現代新書

加藤晴子2016「同じ世界の異なる見方」東京外国語大学言語文化学部編『言葉から社会を考える この時代に〈他者〉とどう向き合うか』白水社pp.106-109

——— 2020「“炒酸奶”はなぜ“炒酸奶”なのか—中日両語の動詞のまとめ方から—」『日中言語対照研究論集』第22号，日中対照言語学会，pp.16-27

木村英樹 2017『中国語ははじめの一步〔新版〕』ちくま学芸文庫

古川裕 2013「日本語と中国語における〈流動〉及び〈流動物〉の認知特徴と言語表現」『現代中国語研究』第15期，朝日出版社，pp.39-51

多田麻美2019『中国 古鎮をめぐり、老街をあるく』亜紀書房：p.173（河南省洛陽市）

「炒めヨーグルト」のような奇妙奇天烈な食べ物を売る車も，定番の羊肉などの串刺しを売る車も，まるで，街の大動脈が一気に脈打ち始めたかのように流れてゆく。

資料

岩波書店2008『広辞苑』第六版（最新版は2018第七版）

北京商務印書館・小学館共同編集2016『中日辞典』第3版

商务印书馆2016《现代汉语词典》第7版

キャプチャー画像はいずれも <http://www.iqiyi.com>より（2018～2022に閲覧）

イラストには，数種のフリー素材サイトを利用。